

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【日曜日のバーベキュー】 (第3・4学年道徳科)</p>	<p>主人公は、川原でバーベキューをした帰りに、ごみ捨て場ではない場所にごみを捨てたことに気付くが、そのままにして帰る。帰宅後、自転車かごに入れられたごみを片付けるお母さんを見ながら、自分のしたことを振り返るとい内容の教材である。広い意味での「きまりを守る大切さ」を考えられるよう、立場の違いに目を向けて考えが深まるようにする。また、多面的・多角的な見方・考え方が存在することに気づけるよう下学年(3年)への丁寧な聞き取り、意見交換や構造的な板書を行う。</p> <p>成果</p> <p>川原にごみを捨てた自分、ごみを片付けるお母さんを見ている自分という2つの立場で考えをもったことで、それぞれの気持ちを理解した上で「やっぱりきまりは守りたい」という意見をもつ児童が増えた。また、意見交換では板書を見て「似てる考えだね」「ぼくとは違う考えもあるんだ」という呟きも聞こえ、個々の考えを深めることができた。</p> <p>課題</p> <p>「ごみのポイ捨て」という内容のみに注目する児童も多く、規則や思いやりが他の場面にも存在することに気づけていなかった。具体的な例を出しつつ、今回の学習内容が生活に活かされるよう指導を続けていく。</p>
<p>2 実践2 【ハートフルタイム(人権集会)】</p>	<p>やまべっこ委員会(運営委員会)を中心に、山部小学校いじめ防止基本方針を確認し「いじめは絶対にダメ」という考えをもとに、ハートフルタイムを実施した。1～3年生は「タマミーのらくがき」、4～6年生は「いじめをノックアウト」の動画を視聴し、「何気ない一言」によって相手を傷つけた、自分の意図とは違う方向に勘違いされたりすることについて理解を深めた。そこから学級毎にいじめ防止について話し合い、標語を募集し掲示した。他学級の標語に向けて「自分もそう思う」「5・6年生みたいに、みんなが笑顔でいられるようがんばりたい」等のメッセージを募り、学校全体でいじめ防止への思いを共有した。</p> <p>成果</p> <p>ハートフルタイム後の話し合いでは「自分も傷つける一言を言っちゃってるかもしれない」「SNSは便利だけど、勘違いされたら悲しい」等の意見が出され、児童自身が生活を見直すきっかけとなった。各学級で考えた標語には「声をあげよう」「みんな笑顔」という言葉が多く使われ、自分の思いや考えをわかり合えるまで話し、山部小全員が笑顔でいられるよう努力したいと考えることができた。</p> <p>課題</p> <p>小規模校である本校でも、SNSでの発言でトラブルになるケースは確実に増加している。発信者は相手が自分の言葉をどう捉えるのか、面と向かって話すときよりも慎重になれるよう引き続き指導していく。それだけでなく、「みんなで仲良く生活したい」という児童の思いを大切に、よりよい人間関係が築けるよう支援していく。</p>